

各位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会  
杵島農業振興センター

「稲作情報（第13号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第13号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R4 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R4 (hr)	平年比 (%)
8月	1	28.3	30.1	1.8	33.4	34.6	1.2	24.5	26.9	2.4	29.3	3.5	12	35.5	40.9	115
	2	28.2	29.3	1.1	33.3	33.9	0.6	24.5	25.7	1.2	30.0	24.0	80	34.7	37.4	108
	3	28.0	29.0	1.0	33.0	32.7	-0.3	24.4	26.0	1.6	32.8	96.5	294	32.8	24.5	75
	4	27.6			32.6			24.1			35.0			31.4		
	5	27.1			32.2			23.5			37.9			30.1		
	6	26.4			31.5			22.8			48.6			34.3		

○8月3半旬の平均気温は平年より1°Cほど高く周期的な降雨により曇天多雨傾向で推移した。

また、秋雨前線の停滞により8月12日から18日かけての総降雨量は347.5mmとなった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：8月16日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/18 移植 武雄市橋町	本年値					出穂期は8月15日。 移植日8/18に対する出穂期では 平年に比べて1日程度早い。
さがびより 6/23移植 武雄市橋町	本年値	80.9	378	12.9	35.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>草丈は平年よりやや高く、茎数は少ない。</li> <li>主稈出葉数は平年より0.6枚少ない。</li> <li>葉色は平年より濃い。</li> <li>※幼穂形成始期8月8日頃</li> </ul>
	平年値	79.4	400	13.5	34.9	
	平年比	102	95	-0.6	+0.8	

※夢しずくおよびさがびよりの平年値はH21～R3の平均値。 耕種概要は稲作情報第9号参照

3. 今後の管理

(1) 夢しずく（普通期）

○現在、穂揃期から乳熟期である。

- ・幼穂形成期から穂揃期にかけては要水量が増加する時期ですが、湛水状態を長く行くと田面がやわらかくなることと根を傷めるので引き続き間断灌水を行う。  
また、水稻にとって酸素供給量が大い時期でもあり、8月12日から18日にかけての大雨により常時湛水した圃場では、可能な限り水の入れ替えを行い水稻に対して酸素供給を促す。
- ・穂揃い期以降は間断灌水を行い、土壌を固めると共に根の活性化を図る。（土が柔らかい圃場では、間断灌水の断水期間を長めにし土を固める。）
- ・葉色が濃い圃場では上位葉に「いもち病」を確認しているので、臨機防除を行う。



《参考 ウンカ類の25株払い落とし調査結果》

表3 管内におけるウンカ類の払い落とし調査(R4)

調査日	セジロウンカ		トビロウンカ		ヒメトビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
8月16日							
6月12日移植	1	0	0	0	0	1	夢しずく(江北町)
6月17日移植	2	0	0	1	3	7	さがびより(江北町)
6月18日移植	0	0	0	0	1	0	夢しずく(江北町)※ゼクサロン系無施用
6月18日移植	0	0	0	0	0	0	夢しずく情報田 ※ヘリ防除済
6月20日移植	0	0	0	0	0	0	さがびより(白石町新拓)
6月22日移植	0	0	0	0	0	0	さがびより(武雄市橋町)※ヘリ防除済
6月23日移植	2	0	0	0	4	1	さがびより情報田 ※ヘリ防除済

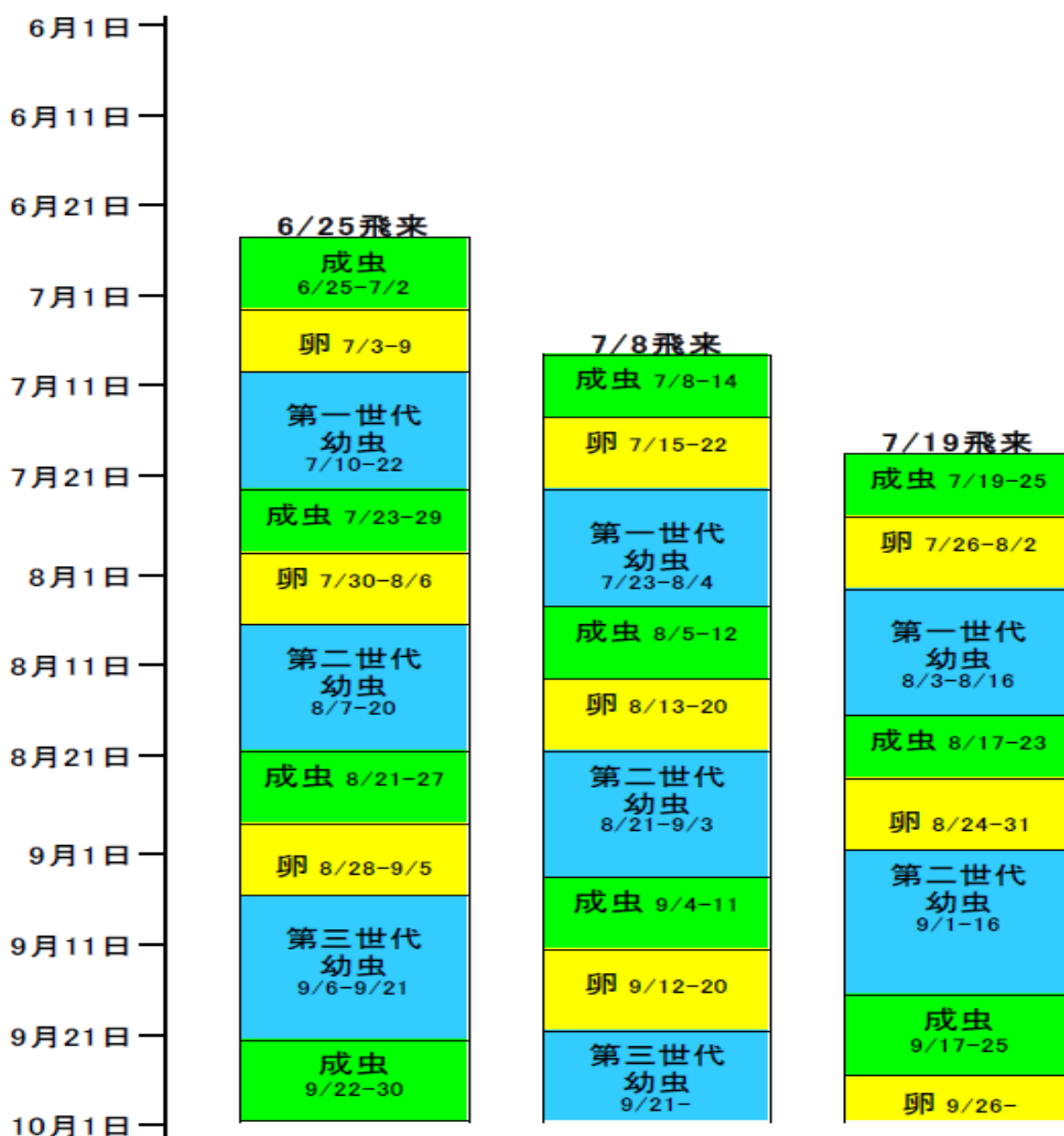


図1 トビロウンカ各世代の発生予測(第3版、2022年7月20日作成)

- 6月23~25日頃(図では6月25日)、7月8日頃、7月19日頃の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月20日以降は平年値)を基に作成した。
- 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
- 今後の飛来状況や気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

### 3) 斑点米カメムシ

- ・「夢しずく」は出穂期を迎えており、斑点米カメムシ類を中心とした乳熟期（穂揃い後10日目頃）の防除を徹底して、斑点米カメムシの被害防止を図る。

発生が多い圃場では穂揃い期（出穂後5日目頃）と乳熟期の2回防除を実施する。

★多発生の目安 ⇒ 20回のすくいとり調査でカメムシが5頭以上の場合  
(穂揃期～乳熟期)



- ・出穂10日前までの畦畔除草は、耕種的防除の観点から効果的である。カメムシはイネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努める。畦畔を100m歩いて、カメムシが3頭いたら、要注意である。

エノコログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処となっている

### 4) 紋枯病

- ・幼穂形成期以降は、各品種とも病気に対する抵抗力が弱まる。今後気温が高くなることから、紋枯病が一気に進展する可能性があるため発生には十分注意する。
- ・病斑が上位葉の葉鞘に進展する前の防除が効果的である。  
(液剤、粉剤の場合は出穂10日～20日前の防除を目安とする)



紋枯病

### 5) 白葉枯病

- ・第1次伝染源の主なものは「サヤヌカグサ」であるが、前年の被害わらなども伝染源になる。  
本病は、水媒伝染によって蔓延する。特に冠水被害や台風等の暴風後に多発生するので注意する。  
防除にあたっては、伝染源の除去、肥培管理と薬剤防除を組みあせた総合防除を行う。
- ・朝夕、露のあるときは発病田に入らないようにする。・窒素肥料の多量の追肥は避ける。
- ・現在本田期に使用できる登録農薬が限りがあり、「オリゼメート粒剤」がある。ただし、オリゼメート粒剤は白葉枯病が発生してからの散布では防除効果が低いので必ず予防防除に心がける。  
また、オリゼメート粒剤を使用した場合、品種や生育ステージによっては下葉がかれあがることもある。

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
オリゼメート粒剤	3～4kg/10a	移植活着後及び 出穂3～4週間前 収穫14日前まで	2回以内 ※プロパザールを含む農薬総 使用回数2回以内

※農薬登録は、随時変更する場合があります。  
散布する際には、必ず最新の『農林水産省農薬登録  
情報提供システム』を確認してください。

